



# 槐魂

～1月号～

生徒会広報部

## 今年を振り返り

### 反省を来年に生かそう

## 二十一世紀を生き抜くために

### 我々が学ぶべきことは

十二月四日に、「第二回トップリーダー教室」が開かれ、寺脇さんが講演を務めました。(一、三時間目に全校生徒、保護者及び、肝付町在住の希望者を対象に体育館で行われました。)

この講演の目的は、実社会の第一線で活躍されている方から直接講話を聴かせていただき、学習面より一層深い学びを得ることです。

講師を務めてくださった寺脇さんは、文部官僚を勤められており、現在、京都造形芸術大学教授、映画

講演後は生徒全員分の感想文が  
お礼として寺脇さんに送られました。

この機会をきっかけに自分の  
進路や将来についてももう一度考  
え直してみてもどうでしょうか。

(左)生徒が寺脇さんの講話を集中  
して聞いている様子。



## ストレスマネジメント講座

十二月四日に、中学生を対象とした、ストレスマネジメント講座が実施されました。

講師は、臨床心理士の中尾誠一先生。タイトルは、「日常生活でのストレス対処法」です。落ち込み・不眠・頭痛や胃痛など、自分の体に現れる様々なストレス反応。ストレスの予防のための生活リズムや、具体

的な対処法について教えて  
いただきました。

講話後は、ストレス対処法の実習を行いました。「睡眠のためのリラックス」というテーマのもと、深い眠りに着きたい前にも、筋肉を集中させ、緊張と脱力を繰り返す方法です。また、イライラしたとき、モヤモヤしたときなどに、気持ちの切り替えにも有効で、体を伸ばす他に、力を入

れたり、抜いたり等ペアを作  
って協力する方法も中には含ま  
れていました。シンプルな方法  
が多かったので、日頃の生活に  
取り入れてみては、どうでしょ  
うか。

また、今回の講演を機に、上  
手にストレスと向き合えるよ  
う、自分に合ったストレス対処  
法を見つけてみてはどうでしょ  
うか。生徒たちも、実習中は、  
真剣に聞く姿勢を取りながら  
も、顔に入れていた力が抜けて  
楽しそうに、取り組んでいまし  
た。

白川

## クリスマス会 三大行事

十二月二十三日、帰省の近づいた夜。そんな中、寮内では活気あふれる、クリスマス会が開催されました。

クリスマス会は、毎年冬の時期に行われる寮行事の一つです。年中で中学一年生から高校二年生までが出席する、ビッグイベントとなっております。

今年も、クリスマスソングがBGMとして流れ、司会は例年どおり高校の寮長が務めました。プログラムの始めにキーの配布があり、高校生が積極的に中学生に配っていたきました。生徒は、キーに魅了されて、クリスマス会の幕開けと共に、生徒たちのテンションは頂点に達しました。

その後、メインイベントである、ビンゴ大会が行われました。ビンゴした生徒とビンゴしない生徒が現れたため、温度差が激しい場面になりました。最後に、昨年公開された「スパイダーマン ファースト・フィルム」を映画鑑賞しました。鑑賞した生徒の中には、映画を楽しみにしていた生徒もいたそうです。最後は静かに幕を閉じました。

クリスマス会が終わった後、生徒それぞれが二学期、二〇一九年を締めくくっていました。これから二〇二〇年が始まります。これからは文武両道に努めていきましょう。

白川



(左)生徒がペアを組んで、ストレス対処法を実践している様子です。



(左)全員で、ストレス対処法を行っている様子です。先生方も体験しました。

## 蛍光ペン

梅木

▼去年一月、ジャーナルグループの「嵐」が二〇二〇年一月三日をもって活動休止することを発表した。このニュースは日本だけではなく、多くのメディアで取り上げられ、大きな社会現象を巻き起こした。そんな中、嵐が残り一年間どのように活動するかが注目されている。▼その動きの一つとしてベストアルバム「5×20 Anniversary BEST-1 1989-2019」のライブツアーが全国各地で五〇公演行われたことが挙げられる。その動員数は歴代最大規模の二〇〇万人にも及んだ。他にも、初のライブ開演や、海外のファンとの交流を盛んに行っているなどがある。このことについて嵐は「残り一年でファンの皆さんと一緒に見たい景色がまだ沢山ある。今まで二〇年の恩返しという意味でも、皆さんが少しでも我々に親近感を持ってもらうため最大限のことをしたい。」と述べている。▼嵐は一九九九年にハワイでデビューし、今までの二〇年間、沢山の場面で伝説を生み続けてきた。メンバーもとても個性的で、各個人の得意分野でも活躍するようなメンバーが出揃っている。テレビの前で独特のオーラを解き放つ嵐は、私には他のグループにはない何かを持っているように感じる。そのプロとしての意識や後輩のジャーナリストに対するふるまい、社会に貢献しようと努力する熱意や、メンバーを思う気持ちなどを含めて嵐のその生き方を、私は心から尊敬している。▼私も今年度、生徒会に入り学校行事や起こった出来事などを伝える生徒会新聞の発行責任者として、毎日制作に溺れる日々を送っている。そんな時期だからこそ毎日今できる最大限のことを実践していきたいと思う。▼ライブでは「嵐というグループの五分の一です」という言葉をよく耳にする。役割を認識した上で自分に謙虚であることや、震災のチャリティコンサートを行い、困った人々のために時間を割くこと、解決策が見つかるまで必死になって考える努力をし続けること……。そういった能力をより多く兼ね備えた人こそが、これからの社会で大きく活躍することが出来るのではないだろうか。